

ねらい ビオトープを活用することにより、以下のような教育的効果を得る。

ビオトープの教育的効果について

(1) 癒しの場としての活用

自然は心の歪を正し、真っ直ぐな成長に欠くことのできないものであり、子どもたちの情緒の安定を図る役割を担っている。

(2) 原体験の場としての活用

自然体験をすることによって生物に親しみ、知ることができる。そこから生命を大切にする心が育ってくる。

(3) 学習の場としての活用

総合的な学習・理科・生活科の実践で、意図的、計画的に年間を通じてビオトープを活用していくことにより、子どもたちの自然認識の力がついてくる。

(4) 地域の人々がふれあう場としての活用

建設、維持管理、学習、地域行事等、多くの人々と交流することで、地域の一員としての自覚が高まってくる。

※ 第5次山形県教育振興計画「いのちの教育」との関わりから

ビオトープは、自然やいろいろな生物とのつながりを学んだり、自分の生き方や社会にも目を向けさせたりするきっかけとなる。小さな生態系に触れることにより、命そのものの大切さを学び、そして生きていることの素晴らしさに想いを抱くようになる。

具体的な活用内容について

(1) 畑や花壇として利用する。

(2) 観察や遊びの場として利用する。

◆畑や花壇として利用する場合の担当学年について

① ビオトープ

ア 畑・・・1年, 2年, 4年 (各学年1列植え)

※ 1年・・・秘伝豆

※ 2年・・・つるり芋

※ 4年・・・ねぎ 等

イ 花壇・・・6年(春), 5年(秋)

ウ さくらんぼ畑・・・3年

② ビオトープ以外

ア 学校前花壇(5つ)・・・4年(春), 3年(秋)

イ クローバー山・・・6年(春), 5年(秋)

ウ グラウンド側の畑・・・6年と級外

・ 6年・・・ジャガイモ(1/3程度)

・ 級外・・・かぼちゃ(2/3程度)



- エ 図書室東花壇（4つ）・・・・・・ボランティア委員会，理科担当者
 - ・ ボランティア委員会・・・・・・フラワークラブの残り
 - ・ 3年理科担当者・・・・・・オクラ，ホウセンカ 等
 - ・ 4年理科担当者・・・・・・ツルレイシ 等
 - ・ 5年理科担当者・・・・・・インゲンマメ 等
- オ 国道112号線（フラワーロード）の植栽・・・・・・5年
 - ※花咲かフェア
- カ 田・・・・・・5年

他の学年で育てている
アサガオ，ジャガイモ，
トウモロコシも利用する。

(3) 年間計画（別紙参照）

(4) ビオトープを含めたサポート隊（畑の先生）・・・・・・基本的に各学年 P を主体とする。

- ・ フラワークラブ
- ・ 今井善明さん（現2年保護者）
- ・ 佐竹隆幸さん（現3・6年保護者）
- ・ 武田昌彦さん（現5年保護者）

要確認↑

1・2・4年の作物に関しては、学年 PTA
から協力者をつのる。
3年のさくらんぼについては、左記3名の方
に、早急に活用委員会よりお願いをする。

ただし、1・2・4年作物の先生が見
つからない場合は、左記3名の方に、
年度当初、活用委員会からお願いをす
る。（各学年1名程度）

(5) 予算（謝礼）

- ・ 消毒（学校予算？）
- ・ その他 苗など 学年予算？学校予算？ 未定

(6) 水生生物について

平成18年度は、生き物を飼わない、放さない。自然の体系を壊さない。

→学校だより、各学年のおたよりなどで呼びかけていく。